

Title	「野口博士逝く」
Author(s)	ロックフェラー医学研究所
Journal	歯科学報, 33(8): 846-850
URL	http://hdl.handle.net/10130/1648
Right	

既に二十餘年になりますが清作の心は飽くまで日本人です、第一私を呼ぶのに野口さんとは何ですか、清作をお呼び捨て下さるが當然です、せめて野口君と呼ばれる事は我慢しますが野口さんは返上致します、泣きながらの立腹でありました、私は其の誠意に感じて前言を取消しさて別れに臨んで、君は急ぐ命は永くないよ、君を戒しめ君も亦「服膺します」言葉は交はしたそれが今こなつては最後の別れでありました、其姿其聲は今尙私の目に耳にまざりて甦ります。然し其時のかりそめの言葉が今や箴をなして君が、西部アフリカの而かも赤道直下に斃れやうとは、誠に情けなき限り辛きこの限りではあるが、然し君の五十三年の數奇なる生涯は苦しくも辛くも一度立てた目的は敢然之を貫徹し世界の大家として而かも學問の犠牲として一身を捧げたことすれば君も亦瞑すべきであります。

あゝ博士野口英世君、君の肉體は滅びたり、雖も君の不抜なる魂は不滅の生命として人類の上に永遠の光明を興へるであります。願はくば聞く能はざる君の聲を見る能はざる君の光りに依て多くの人々が指導せられ鼓吹せられ奮起して此世に貢獻せられん事を祈念して止みませぬ。(寫眞は大正十一年紐育に於て撮影したるもの)

野口博士逝く

「ロックフェラー」醫學研究所發表

「ロックフェラー」醫學研究所の野口博士は千九百二十八年五月二十一日(月曜)西アフリカ、アクラに於て逝去せり。野口博士は、南米ニアフリカの黃熱病の關係を發見せんが爲め、科學的努力を盡して人道の爲め、其生命を捧げた。南米に於て博士のなせる細菌學的研究の結果が之を西アフリカに現存する黃熱に應用し難き事の傳へらるゝや、其健康最佳の状態にあらず、亦年齒既に進めるにも係らず多くの友人等の勸告を退け、遂に此困難なる遠征を決心せ

り。博士のアフリカに於ける研究は終了し、五月十九日紐育に向て歸途に就くべき豫定なりしが其數日前博士自身黃熱病に罹れり。此度のアフリカ行の計劃は博士も其危険を充分認めつゝ之に赴き、遂に不幸にも博士の數多の満足すべき科學的遠征の最後のものとなり、最上の犠牲を致す事となり。博士の研究の結果は恐らく失はれざるべく、他の人々により繼承せらるゝならんも、博士若し餘命ありて自ら之を作したらん程の立派さを以て、最後の結末及發表を爲し得る事は何人にも期待し難きところなり。

博士は千八百七十六年十一月二十四日、日本福島縣耶麻郡猪苗代に生る。千八百九十三年より七年迄の間醫學を學び、千八百九十七年日本政府より醫術開業の免許を得たり。

千八百九十八年より千九百年迄、博士は東京に於ける國立傳染病研究所の助手となり、其間東京齒科醫學院に於て細菌學の講義を擔當せり。

博士は千九百年米國に來り、シモン、フレキスナー博士の下に「ペンシルヴェニア」大學病理學教室員に加り、千九百三年迄茲に止り、其間華府「カーチギー」學院の研究助手に指名せられ、それよりマドセン博士の下に、コペンハーゲンに於ける國立血清研究所に於て研究を繼續せり。千九百四年、紐育に「ロックフェラー」研究所の設立せらるるや、博士は其創立幹部たり、又其正所員の一人となり、此位置は「アクラ」に於て博士が黃熱病の繼發症の爲めに逝去した時迄之を保持したり。

博士は、千九百十一年日本政府文部省より博士を授けられ、又千九百十四年東京帝國大學よりの學位を初め、多くの名譽學位を受けたり。千九百二十三年に於ては日本帝國學士院の會員に擧げられ、千九百二十四年十大日本人の一人として表彰せられたり。博士に榮稱を與へたるものの中には、米國の「エール」、「ブラオン」兩大學、巴里の「ソルボンヌ」大學等あり。黃熱病に就て研究せる南米諸國より多くの榮號を贈られ、千九百二十一年にはフキラデルフキア市よりのジョンスコット賞牌を授けられたり。博士は亦佛國の「レジオン、ドノール」勳爵士、西班牙の「イサベラ」勳章、丁抹

の「ダンチブログ」勳章及瑞典の北極勳章の「ナイト」なり。千九百十五年日本に於て帝國學士院より恩賜賞牌及賞金を與へられ、且つ旭日章を授けらる。博士は亦米國及他の諸國の多くの學會の會員なり。

博士は卓越したる細菌學者にして、同方面に於て今古を通じて最も著名なる人々の列に伍せり。博士の最初の科學的業績は、蛇毒及抗蛇毒素の生物學に關するものにして、千九百九年、華府「カーチギー」學院は蛇毒に關する博士の論説を出版せり。後博士は「スピロヘータ」の細菌學に就て異常なる成功を博し、其多數のものは博士により初めて人工的に培養せられたり。博士は亦麻痺狂患者の腦中に「トレボチーマ、バルリデム」を初めて證明し、且つ麻痺狂に罹れる患者より得たる腦組織を以て、家兎に微毒の感染を起さしめたり。千九百十五年、博士は家兎の組織中に無菌なる痘苗を初めて培養し、種痘の目的に適する純粹痘苗の製出に、大なる實用的價值ある業績を擧げ得たり。千九百十八年博士は「ロックフェラー」財團の國際保健局より黃熱病委員として、エクアドル國クアヤキルに赴きたるが、此度同財團が西アフリカの同病を研究するに當り、「ロックフェラー」研究所の同意により、博士を煩し遂に其生命を提供するに至れるに對照し、誠に注意すべき出來事なりき。

近年、博士はカリオン氏病（「オロヤ」熱、竝に之に隨件する皮膚病（「ヴェルガ、ベルアナ」）の患者の血液より「バルトチラ、バシリフォルミス」(Bartonella bacilliformis)なる微生體を分離し、其培養を以て人類に於ける同病を猿に發生せしめ得たり、此成功により「オロヤ」熱、「ヴェルガ」の關係に就て、久しき間の爭論を解決したり。

千九百二十六年博士は「トラホーム」に罹れるアメリカ印度人の眼より、一種の桿菌を發見し之を以て「ベンガル猿竝に黑猩猩に同病を發生せしめたり。此研究により「トラホーム」の本態に關する多年の論議は遂に歸決する處を得たり。

野口博士の死により、細菌學は最も卓越せる最も獨創的なる研究者の一人を失ひ、「ロックフェラー」醫學研究所は、最も著明なる科學的研究者及び最も親しまれたる、最も尊敬せられたる所員の一人を失へり。

博士は、千九百十五年、メリー、ダーチス嬢と結婚したり。夫人は今や未亡人たるの悲を嘗むるに至れり。

PROFESSIONAL POSITIONS. 職業

- Assistant, Tokyo General Hospital, 1897-98. (順天堂病院)
 Lecturer, Tokyo Dental College, 1898-1900. (高山齒科醫學院, 東京齒科醫學院)
 Assistant, Government Institute for Infectious Diseases, Tokyo, 1898-1900. (傳染病研究所)
 Assistant, Quarantine Officer, Dept. of Interior, Government of Japan, 1899.
 Director of Laboratories, Hospital of International Sanitary Board, New Chwang, China, 1900.
 Assistant in Pathology, University of Pennsylvania, 1901-03.
 Research Assistant, Carnegie Institution of Washington, 1903-04.
 Assistant, Rockefeller Institute for Medical Research, New York, 1904-07;
 Associate, 1907-08; Associate Member, 1909-14; Member, since 1914.

MEMBERSHIP IN SCIENTIFIC SOCIETIES. 學術團體關係

Member; 會員

- Association of American Physicians
 American Society for Experimental Pathology
 Harvey Society
 American Association of Pathologists and Bacteriologists
 American Philosophical Society
 American Medical Association
 American Association for the Advancement of Science
 Society for Experimental Biology and Medicine
 American Society of Immunologists

Honorary member; 名譽會員

- Colorado Medical Society
 Saint Louis Medical Society
 Suffolk County (New York) Medical Society

Corresponding member; 通信會員

- Gesellschaft für innere Medizin und Kinderheilkunde, Vienna
 Société de Biologie, Paris
 Société de Pathologie Exotique, Paris
 Norske medisinske Selskab, Christiania
 Société de Dermatologie et Vénérologie, Moscow
 Sociedad Científica "Antonio Alzate", Mexico City
 Asociación de Empleados de Guayaquil
 Sociedad Medical de Caracas, Caracas
 Accademia Medico-fisica Fiorentina, Florence

Sociedad Médico-Quirúrgica del Guayas, Guayaquil
 Academia Nacional de Medicina, Venezuela
 Royal Academy of Sciences, Denmark
 Société Dermatologique et Venereologique d'Odessa.
 Kaiserlich Deutsche Akademie der Naturforscher, Halle
 Wiener Mikrobiologische Gesellschaft
 Medical Society of Bologna

TITLES AND DEGREES. 學位及稱號

Master of Science, *honoris causa*, University of Pennsylvania, 1907.
 Titular Professor (Igaku-hakushi), Imperial Government of Japan, 1911. (醫學博士)
 Ph. D., University of Tokyo, 1914. (理學博士)
 Honorary Senior Surgeon (Cirujano Major), Ecuadorean Army, 1918.
 Honorary member, Faculty of Medicine, Universities of Guayaquil and Quito, 1918.
 Doctor of Medicine, *honoris causa*, School of Medicine and Pharmacy of Yucatan, 1920.
 Honorary Member, Mexican National Academy, 1920.
 Honorary Member, Faculty of Medicine, University of Lima, 1920.
 Doctor of Science, Brown University, 1921.
 Doctor of Science, Yale University, 1921.
 Member, Imperial Academy of Japan, 1923. (帝國學士院)
 Docteur *honoris causa*, University of Paris, 1925.

DECORATIONS AND MEDALS. 勳章及賞牌

Knight of the Royal Order of Isabella la Católica (Spain), 1913.
 Knight of the Royal Order of Dannebrog (Denmark), 1913.
 Knight of the Order of the North Star (Sweden), 1914.
 Order of the Rising Sun (Japan), 1915. (勳四等旭日小授章)
 Medal, Society for the Promotion of Human Welfare, Japan, 1915. (義勇表彰會)
 Emperor's Medal and Premium, Imperial Academy of Japan, 1915. (恩賜賞牌及賞金)
 Medal, Asociación Escuela de Medicina, Guayaquil, 1918.
 Medal, Asociación de Empleados de Guayaquil, 1918.
 Medal, Los Centros de Trabajo, Guayaquil, 1918.
 Medal (Scientific Exhibit), American Medical Association, 1919.
 John Scott Medal, City of Philadelphia, 1921.
 Medal, Elocution Society of Japan, 1922. (雄辯學會)
 Chevalier de la Légion d'Honneur, République de France, 1924.
 Kober Medal, Association of American Physicians, 1925.